資料 1－1

今後さらに取り組むべき課題について
～第1回地域資源戦略協議会での議論より～

⑴地域発のイノベーション創出のための仕組みづくり⑵

平成25年12月12日
地域資源戦略協議会

座長 生源寺 眞一
○副座長 森 和男

II 地域発のイノベーション創出のための仕組みづくり

【議論の視点】

○ 「科学技術イノベーション総合戦略」では、地域資源を強みとした地域の再生を図る観点から、

① 高度なITや生産技術を活用した活力ある地域経済が実現した社会

② 地域の強みを活かした地域経済の活性化が実現した社会

の実現を目指すとしている。

○ これらの社会像を踏まえつつ、「地域発のイノベーション創出のための仕組みづくり」について、

① 今後新たに取り組むべき課題

② 施策を進めるにあたって、重要となるポイント・着眼点

の議論を行った。

【全体的な論点】

○市場動向、グローバル視点を踏まえた戦略

- 市場のグローバル化や製品のトレンドを分析し、各地域の競争力の今後の展開を見極めた戦略が必要。
- 既存の強みが弱体化傾向にある場合、まずは既存のインフラを活用することを検討すべき。
- 日本は容易にキャッチアップ出来ないものづくりのポテンシャルを持ち合わせているため、攻めだけではなく、守りの戦略も重要。

○製造技術に対する戦略的取組

- 三次元造形等の新規の製造技術が「なぜ価値創造になるのか」「地域の競争力強化に繋がるのか」を明確にする。
- 装置を手段と捉え、「何を作るのか、メリットは何か」、目的とニーズを明らかとした上で取り組むことが重要。

○連携推進とファンディング

- 地域の特色化と地域間連携によるグローバル化とのバランスを取るため、長期支援型の産学連携プラットホームが重要。
- 共同研究体が予算申請と運用ができるよう、プロジェクト、コンソーシアムなどが法人格を持てるような仕組み作りも重要。

○日本の持ち味・特徴を活かした取組

- 三次元造形技術においては、地域に散らばる切削、接合、成型といった世界トップレベルの加工技術との融合・システム化によって日本の強みを出せる。
- 日本が培ってきた高性能・高耐久性だけでなく、日本独自の意匠性・審美性を日本ブランドの付加価値として商品化できる産業構造が必要。

○価値創出の取組

- プロダクトとサービスを融合することにより、新たな価値を創出、拡大する取組が重要である。
- デザイン(人と人工物の関わり全般を統合的にプロデュース)を活かしたものづくりが重要。

○人材育成の取組

- 高付加価値生産を運用出来る人材、ものづくりと広報を一体的にマネージメントできる人材の育成と地域への普及が重要。

○技術普及のための制度面での対応

- 許認可ビジネスの発展を鑑み、厚労省などの規制官庁との連携や、規制緩和を含めた法整備も重要。

三次元造形技術などの生産技術

【今後さらに取り組むべき課題】

■三次元の「造形」だけでなく、「デザインツール」「計測」「VR、MR」技術開発。
(ただし喫緊の技術課題としては，形状測定よりも力学的計測)

■切削、接合、成型といった従来の技術との融合・システム化による複合化三次元造形技術。

■必要なスペックに合わせた組み込み光源の開発(小型高出力LDなど)

■高付加価値生産を支える、研究・開発、企画、生産などに係る広いスペクトラムでの人材育成。

【施策推進のポイント】

■装置を手段として捉え、三次元積層造形だけが作れる形状など、「何を作るのか、メリットは何か」，「なぜ価値創造になるのか」「地域の競争力強化に繋がるのか」など、目的とニーズを明らかとした上で特徴を出す。

■三次元造形やデジタルマニュファクチャリングが発展し、ノウハウを必要としない汎用化した生産技術が台頭すると、地域固有の技術に依存した生産技術の強みを削いでしまうネガティブな可能性も考慮する。

■従来の加工技術(切削、接合、成型etc.)の更なる向上により、従来技術だけでなく、従来技術との複合化三次元造形技術の両者が発展する相乗効果を狙うのが重要。

■規制緩和を含めた法整備への取組。

【分野別の論点】　※ 全体的論点からの再掲あり

地域の産学官が連携した地域経済活性化

【今後さらに取り組むべき課題】

■地域の特性を活かしたものづくりと情報発信の基調となる、地域のブランディングデザインの導入。

■「ものづくり+広報」を同時にディレクションする「アートディレクター」の地域への導入。

■大学・公的研究機関の研究・開発情報と企業技術情報の相互共有の仕組みづくり。

■地域の中堅・中小企業と大学の少数精鋭チームによる、基礎段階から研究開発が可能な長期的プロジェクトの支援。
（これまでのプロジェクトは、参画する大学や企業が多く、内容が散漫になり、大きな成果が得られにくい。）

【施策推進のポイント】

■強みとする生産/加工技術を踏まえて、各地域に適した技術や仕組みを展開することが必要。

■地域固有の資源や、企業の枠を越えた地域共同の仕組み等が重要。一方、これら様々な資源を活用するためのファイナンスの仕組みやグローバル市場とのリンケージなど、経済価値につなげる仕組みも重要。

■情報発信の全てをコントロールして地域の特性に応じた価値を高める視点(ブランディングとアートディレクター導入)。

■デザイン(人と生産物の関わり全般を統合的に計画する）本来の役割を活かしたものづくりの全国への普及と、それを担う人材育成。

■創出される価値がモノにあるのか、モノがもたらすサービスにあるのか等を見極め、価値に応じた最適な産学官連携を構築する。